



# 貴志康一

## クラシックミニコンサート

と き：平成24年12月23日（日）12時～13時

ところ：都島区役所 玄関ホール

主催：貴志康一記念事業運営委員会・都島区役所

## プログラム



木管4重奏 「オンブラマイフ(ラルゴ)」  
クラリネット4重奏

貴志康一 / 歌曲「八重桜」「赤いかんざし」  
「クリスマスメドレー」  
「ママがサンタにキスをした」

サクソ2重奏 「オーバー ザ レインボー」「フライ ミー トゥ ザ ムーン」

木管4重奏 「ウインター ワンダーランド」

混合5重奏 「また君に恋してる」

フルート2重奏 「もろびとこぞりて」「愛の挨拶」

混合3重奏 「ラストクリスマス」

金管4重奏 貴志康一 / 歌曲「かごかき」

「時代劇メドレー」「栄光のかけ橋」「きよしこの夜」

フルート

周 萌綺 西谷 加代子

クラリネット

上坂元 和代 高田 洋子 辻村 眞次 札幌 日可里

バスクラリネット

池田 礼子

アルトサキソフォン

鈴木 喜晴 仲田 沙良

テナーサキソフォン

渡辺 佑人

トランペット

山中 昭子 三好 計 大江 良和 渡壁 愛

トロンボーン

黒田 千里

チューバ

山田 博之



## 桜宮ウィンドオーケストラ

「桜宮ウィンドオーケストラ」は、1999年4月、大阪市都島区内の中学校卒業生が中心となり、都島区内初の市民吹奏楽団として結成されました。

現在、中学生から社会人の幅広い年齢層の団員35名で和やかなムードの中楽しく練習しています。そして、私たちが目指しているのは、「地域の方々と一緒に音楽を楽しむ吹奏楽団」です。

結成から12年が経ち、都島区コミュニティ協会や区民の皆様方のご理解とご協力によって、今では多くの地域行事で演奏の場をいただいています。



# 曲目解説

## 歌曲

歌曲の代表作は3度目のベルリン留学の前に作曲・出版された「赤いかんざし」「かごかき」の2曲と「かもめ」「八重桜」「天の原」「風雅小唄」「さくらさくら」で、これら全7曲は、1934（昭和9）年R. ビルンバッハ社から出版されました。これらの曲のうち、「かごかき」「かもめ」「八重桜」「天の原」は、1933（昭和8）年12月、ピアノ伴奏でM. バスカ独唱によって初演されました。これらの曲とともに「赤いかんざし」「風雅小唄」「富士山」「燕」にも管弦楽伴奏が付けられ、翌年3月に、独唱M. バスカ、指揮貴志康一、ウーファ交響楽団によって全8曲を初演しました。ベルリン留学中に作曲した管弦楽伴奏歌曲には、「花売娘」「行脚僧」「芸者」「力車」などがあります。

「八重桜」は伊勢大輔の「いにしへの 奈良のみやこの 八重桜 きょう九重に においぬるかな」に「天の原」は阿倍仲麻呂の「天の原 ふりさけみれば 春日なる 三笠の山に いでし月かも」に旋律をつけたものです。日本に伝わることばや、その情景を音楽で表現したものといえます。「赤いかんざし」と「かごかき」の歌詞は他の多くの歌曲同様に康一が書いたものです。それらのなかには「天神祭のかがり火を」「浪花はよいとこ名所が多い 天満の天神 天王寺 御霊に住吉大阪城」「天神祭のお舟が通る 太鼓たたいて 松明つけて どんちきちきちき どんちきちん」「曾根崎新地の夕べの風情 三味や太鼓のはやしも陽気 とんとことこと どんとことん」など大阪の地名や天神祭りの情緒豊かな情景が出てきます。大阪で過ごした日々や思い出は、康一の作曲の大切な土壌となったのです。

## 貴志康一

音楽を愛する家庭に生まれた貴志康一は、幼少期を都島区網島町で過ごし、やがてヴァイオリニストを目指すようになりました。

ヨーロッパ留学中には作曲・指揮に力を注ぐようになり、25歳でベルリン・フィルを指揮するなど欧州で活躍しましたが、病のため28歳の若さで、その才能を惜しまれつつ世を去りました。



甲南学園貴志康一記念室所蔵資料

# 貴志康一略年譜

| 西暦（年号）                           | 事 項  |
|----------------------------------|--|
| 1909（明治42） 3月31日                 | 大阪府吹田市の西尾家（母カメの実家）で生まれる。<br>住居 当時の北区網島（現 <b>都島区網島町</b> ）   |
| 1915（大正 4） 4月                    | 偕行社附属小学校（現 追手門学院）入学。   |
| 1918（大正 7）                       | 兵庫県武庫郡精道村（現芦屋市伊勢町）に転居。   |
| 1919（大正 8） 4月                    | 甲南小学校に転校、5年生に編入。   |
| 1923（大正12） 秋                     | ヴェックスラーにヴァイオリンを師事。   |
| 1925（大正14） 5月<br>10月             | 「貴志康一ヴァイオリン演奏会」（大阪）を開催。<br>JOBKオーケストラに入団。  |
| 1927（昭和 2） 1月                    | スイス国立ジュネーヴ音楽院に留学。  |
| 1928（昭和 3） 9月                    | ベルリン高等音楽院ヴァイオリン科入学。  |
| 1929（昭和 4） 9月                    | ストラディヴァリウスを携えて帰国。  |
| 1930（昭和 5） 1月<br>5月              | レオ・シロタと「ソナタの夕」を開催（東京）。<br>以後、京都、大阪でもデュオ・コンサート開催。<br>ベルリンへ。（第2回渡欧）<br>ヴァイオリンに加え、映画音楽も学ぶ。フルトヴェングラーとも交流。                  |
| 1931（昭和 6） 7月                    | 帰国。秋以降、大阪でヴァイオリン独奏会を開催。  |
| 1932（昭和 7） 10月<br>10月            | 歌曲集「浪花民謡」出版（赤いかんざし、かごかき等）。<br>ベルリンへ。（第3回渡欧）  |
| 1934（昭和 9） 3月<br>11月             | 「日本の夕べ」をベルリンで開催、自身の作品、映画「鏡」、<br>「春」を上映すると共に、「日本組曲」、「ヴァイオリン協奏曲」<br>等を発表・指揮する。<br>ベルリンフィルを指揮して「仏陀の生涯」「日本スケッチ」を初演。        |
| 1935（昭和10） 3月<br>9月              | ベルリンフィルを指揮して、「かごかき」等の作品を録音。<br>「帰朝記念・貴志康一作品発表演奏会」で指揮者として日本デビュー（大阪）。  |
| 1936（昭和11） 2月<br>4月<br>6月<br>11月 | 新交響楽団を指揮、ベートーヴェン「第九交響曲」を暗譜で演奏（東京）。<br>ピアニスト、ヴィルヘルム・ケンプと新交響楽団を指揮して共演（東京）。<br>盲腸炎のため慶応病院に入院。<br>父、彌右衛門逝去、病軀をおして帰阪。葬儀後入院。 |
| 1937（昭和12） 秋<br>11月17日           | 小康を得て、療養生活を送っていたが、腹膜炎の悪化から再入院。<br>心臓麻痺で死去。享年28歳。   |